



市の取り組みの紹介

男女いきいき、職場見学ツアー

市は11月22日、市内の企業を訪ねて職場での男女共同参画や子育て支援策について学んでもらうため、「男女いきいき、職場見学ツアー」を開催しました。男女共同参画の意識啓発として講演会などを開催してきましたが、職場見学の形で行うのは今回が初。岩手大学の協力を得て、市民や岩手大学の学生など33人が参加し、江刺工業団地内の東京エレクトロン東北㈱の工場見学を行いました。

見学後の質疑応答では、従業員の採用の様子や育児休暇の取得状況などについて多くの質問が寄せられ、参加者の関心の高さがうかがえました。

市は、今後も同様のツアーを続けていく予定です。



榊 英恵さん
(岩手大学工学部3年)

企業説明会で会社を知り、見学に興味を持ちました。男女共同参画については、ニュースで聞いたことがある程度。これからは男女共同参画社会の実現に向け、自分が一歩を踏み出したいです。



高橋 睦美さん
(岩手大学工学部4年)

男女共同参画の知識はありましたが、育児休暇などの実情は分からず不安でした。ツアーでは、育児休暇から職場に復帰する女性が多いことや女性への企業の支援を知ることができました。



千葉 英紀さん(64)

何を作っている企業なのか興味があり参加しました。男女共同参画を意識したことはなかったですが、ツアーを経て、女性の働く場が広がりつつあることを感じました。自分には何ができるか、考えてみたいですね。



後藤 直子さん(59)

男女共同参画の取り組みを知ったのはツアー参加がきっかけ。会社は女性社員が少ないながら、働きやすい職場づくりを工夫していると思います。このようなツアーに協力してくれる会社があることは心強いです。

企業に聞いてみた



東京エレクトロン
東北㈱

企画管理部
藤田 圭一 部長

<企業概要>

昭和60年、江刺区に事業所を設立。半導体製造装置メーカーとして、グループは世界市場で高いシェアを持つ。

——ツアー受け入れのきっかけは？

もともと市や県とのつながりを大事にしている、工場見学を多数受け入れてきました。男女共同参画という視点での見学は初でしたが、ぜひ見てくださいという気持ちで受け入れを決めました。

——取り組みはいつから？

社内での取り組みが今の形となったのは女性活躍推進法の実施に合わせてです。そのほか、以前から岩手大学の女性研究者の活躍推進の取り組みに、外部委員として協力してきました。

——自分たちの取り組みの特徴は？

働きやすい職場を目指し、産前・産後休暇、育児時間、介護時間などの制度取り入れを迅速に行ってきたという自負があります。

ります。職員が相談しやすい窓口（ポータル）を設置することで気軽に意見を言える職場環境を作り、職員の意見を参考にした問題解決が図られています。

——国・県・市に期待すること

女性社員などの通勤の利便性向上のため、バスの延伸を市にお願いしています。インフラ整備や男女共同参画などの取り組みでの旗振り・まとめ役を市などの官が務めてくれることを期待しています。

——市民へのメッセージをお願いします

男女共同参画の取り組みはまだまだ途上です。我々は分野的に女性従業員が少ないですが、増えていくよう周知に努めています。市民の皆さんには、われわれの頑張る姿を見てもらいたいですね。

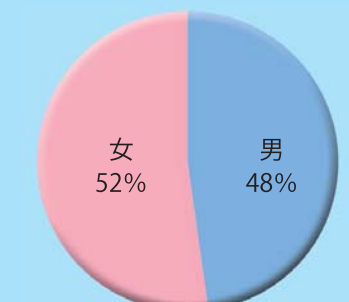


男女比はほぼ同じ！男も女も関係なく活躍しているね



この比率は奥州市の人口の男女比とほぼ同じです。均等に責任を担っていますね

■市内小学校の児童会長※の男女比（28年11月1日現在）



※児童会長およびそれに相当する役職



「社会のあらゆる分野で性別を超えて活躍する機会が与えられる社会だよ（下段の定義参照）」



「あらゆる分野！今、僕の周りはどうなっているのかな？」



「それでは身近な学校や地域の役職の状況について、一緒に見てみましょう」



「男女共同参画社会ってどんなものですか？」

男女共同参画社会について学ぼうと市役所を訪れた奥州太郎くん。担当する部署は協働まちづくり部地域づくり推進課です。

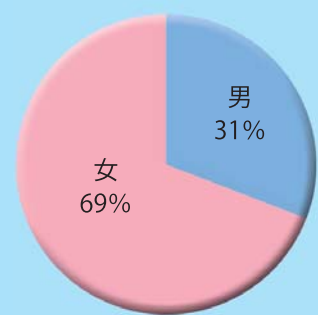


いい疑問ですね。男女共同参画を考える手始めに、なぜなのかという疑問を持ってほしいと思っています



今度は女の人が多いね。この差はなぜ生まれるの？

■民生委員・児童委員の男女比（28年12月1日現在）

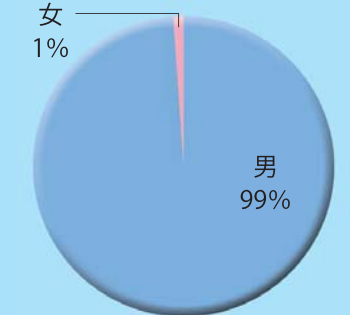


地域の役職に、こんなに男女の偏りがあるなんて知らなかったな



他の地域のことはなかなか目が見えないですね

■行政区長の男女比（28年12月1日現在）



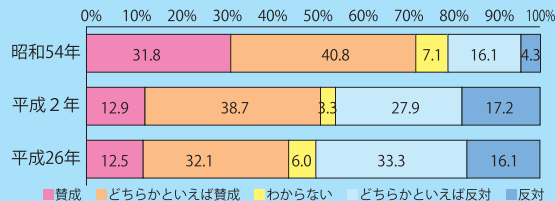
僕も知らないうちにこういう考えにとらわれているのかも！



以前に比べ多くの人の意識は変化していますが、まだ拮抗していますね

■固定的な性別役割分担意識

<夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである>



※内閣府「ひとりひとりが幸せな社会のために」より抜粋

男女共同参画社会の定義（男女共同参画社会基本法第2条）

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意志によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的および文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会



「なぜだろう？」から始めよう！男女共同参画



「なぜ男女の偏りが生まれるの？」
「本来はどうあるべき？」をいろんな人に聞いてみたい、一緒に考えたいと思った奥州太郎くんでした。



「そう思います。これから一緒に考えていきましょう」



「今日はどうもありがとう。おかげで僕たちの周りの男女の偏りに気付くことが出来ました。意識することで、きっと社会は変わっていくよね」



「この他にも、セミナーや講演会を年に何回か開いています。企業訪問は初の試みでしたが、好評だったのでこれからも開催したいと思っています」



「知らない組み合わせがあるなんて知らなかったな」



「そうですね。そこで市は、皆さんに男女共同参画について考えてもらうため、左ページのような取り組みも行っています」



「ひとりひとりの考えが変わっていないといけないね」



「ひとりひとりの考えが変わっていないといけないね」



「そうですね。そこで市は、皆さんに男女共同参画について考えてもらうため、左ページのような取り組みも行っています」